

「なぜ勉強するか」伝えたい

伊勢の山中さん 高校中退から学習塾経営

自身は高校中退ながら、学習塾を経営して指導に携わる女性がいる。伊勢市内で2店舗を経営する山中有美さん(40)＝同市岩瀬。経験を生かし「なぜ勉強するのか」を子どもたちに伝えていく。

(大見重蘭)

ある日の夜8時ごろ。中学生たちが黙々とタブレット端末を使って学習していた。山中さんは、苦戦している生徒がいなか教室内を見回る。「自分も勉強が苦手だった。つまり、ポイントに似ているから、理解できるように説明できる」とほほ笑む。

伊勢市の小学校の3年生だったときに半年間、小児腎炎で入院。退院後の授業についていけなかった。中学校でも、勉強が分からなかった。高校1年の7月、「アルバイトをして、お金を稼ぐほうが良い」と考えて中退した。

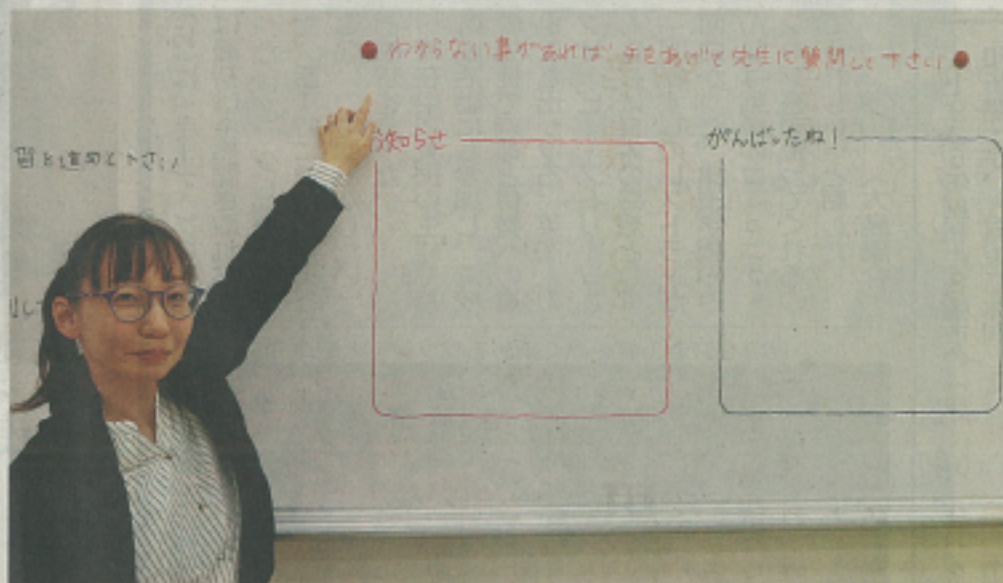
中退後は、アルバイトや派遣社員として働いた。結婚して長女を出産。突然の発熱などで早退することもあり、職場に居づらくなっ

て職を転々とした。

転機となったのは、30代前半でコンビニのアルバイトをしたとき。新人店員の教育係を担当し、仕事を通じて「教えるのが楽しい」と感じた。

長男を出産した後、子ど

わかるうれしさ 経験を基に指導



勉強が苦手だった自身の経験を生かし、子どもたちを指導する山中さん＝伊勢市小湊町のイオンタウン伊勢ラパークで

もたちの人間的な成長の手助けがしたいと考え、「公認心理師」になろうと一念発起。資格取得には大学と大学院で学ぶ必要があり、2021年から高卒認定試験の勉強を始めた。

育児と仕事をしながら、中学校の内容から復習を始めた。2年ほどだった30年夏、高卒資格を取得した。大学受験を考える中で「目の前で大変な思いをする子どもを助けない」と学習塾

夫の伸拓さん(49)も「子どもの将来をつくる」ことができる誇らしい仕事だ」と導く。現在は2歳、小学5年生、高校1年生と3人の子どもたちを育てるが、帰宅は夜遅くになり、夕食などは伸拓さんが用意する。子どもたちから「なぜ勉強するのか」と問われることもある。その理由を「成績を上げるのも重要だが、やるべきことを、きちんとやるのが大切。自由はその上で手に行うことができる」と語る。



勉強したくないという子どもの気持ちを、山中さんは「知っている。自分もそうだったから。でも、わかるようになったときにうれしいのを知っている」と語る。学ぶことで成績を上げるだけでなく「人間的にも成長してほしい」と願う。

「業界でも珍しい存在」

約400社が加盟する全国学習塾協会(東京)の担当者は、高校中退からオーナーとなった山中さんについて「客観的なデータはないが、かなり珍しく本当に一握りだ」と思う。業界の中では、異例と言える挑戦。後押しした明光ネットワークジャパン開発部兼RED事業本部(同)の伊東幸広課長(49)は「自身の経験から勉強する理由を伝えられるので、絶対やるべきだ」と思った」と意図を説明した。

(大見重蘭)